

▲ ① 鳥喰下と ② 栗山の馬頭観音様

## 横芝の碑（その七十二）

### 乗馬姿の馬頭観音様その後

このシリーズその四十一で、北清水延命寺の乗馬姿の馬頭観音様をご紹介しました。その後、「このお姿は何とお呼びするのか、「どなんことを守護されるのか、」などと気になりましたので、それとなく心当たりを調べておりましたが、そのうちに「延命寺の乗馬の馬頭観音様はもと道端に建っていたのではないか、栗山か鳥喰方面の道端に同じ姿の石像を見たことがあります」と暗しの類か」と自嘲しながら、

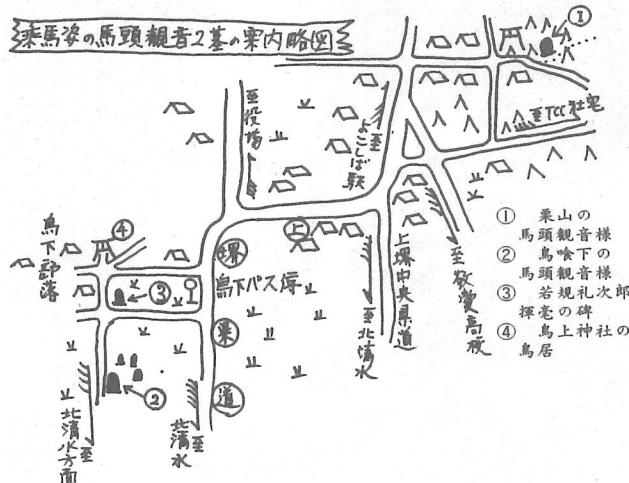
道路沿や古老の方を訪ねるなどして、栗山の産土神様の森を横切る細路の前と、鳥喰下から北清水方面に下る道路の畔に建つていて、お姿で、地元の人々は両方とも馬

刻まれている文字の他は全く同じではありませんが、その分れ道の端に建っていたのだそうです。そこに人々がツチトリバと呼んでいた馬の蹄（ひづめ）を切る作業場がありました。人に飼われている馬は

馬頭観音様も他に移さなければならなくなり、一時は信仰心の厚い民家庭の庭に祭られたりした後、現在の場所にお祭りされたという話です。石像の表面両側には、文政三年（一八二〇）十一月立、省

村郷中、と刻まれています。

鳥喰下の馬頭観音様は、数年前までは、今は廃道になってしまつた浜街道と呼ばれる栗山方面から鳥喰新田を経て鳥喰下に入り、ここから新島新田および北清水方面に通する道路の畔に建つていて、その道路改修の時に移してお祭りしたものだと



### 道中安全の守り神(?)

北清水の石像には年号が入っています。鳥喰下の石像には

吉日と刻まれています。

文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿

頭観音様と同じように呼んでいるのです。

栗山の馬頭観音様は、昔、といつてもまだ四十五十年前のことですが、今の横芝小学校のあたりから、栗山の庚申前に通する道路

人間が平均に切揃えてやつたのであります。ツチトリバというのは、ツメ

トリバが転じたのか、爪を切る前

に土を払い落とさなければならぬので土取りと呼んだのかその理由はよく分りませんが、馬頭観音

様の建つている爪切場というので、農耕馬、荷馬車など馬持ちの人々は、随分遠くからも爪切りに来る

ので、なかなか覚えたということです。そのうちに土地改良、道路改修などが行われたりしました。馬頭観音様も他に移さなければならなくなり、一時は信仰心の厚い民家庭の庭に祭られたりした後、現在の場所にお祭りされたという話です。石像の表面両側には、文政三年（一八二〇）十一月立、省

守り神（仏）として建てられたのが、馬に乗って道中安全を祈る合掌姿の馬頭観音様なのではなかろうか」と思われるくるのでした。写真は上部の草むらの中に建っているのが鳥喰下の馬頭観音様で、下方林の中に建っているのが栗山の馬頭観音様です。お姿は北清水のを含み三体とも全く同じです。（本稿取材にあたり、栗山の加瀬実さん、鳥喰下の齊藤政男さんの御協力を頂きました。）



は建立者が刻まれていません。年号も建立者も刻まれているのは栗山の石像だけです。しかし、改め

て三つの乗馬姿の馬頭観音様のそれぞれが持たれるユーモラスな愛嬌を浮べられた表情を想い浮べて

みますと、馬頭観音は烈しい噴怒相を持つので菩薩ではなく明王である」という私が或本から与えら

れていた認識が次第に薄らぎ、「この三体の馬頭観音様はやはり菩薩であろう。九里山路（栗山路）と呼ばれ、追剥や強盗も出没すると言われた山路を避けた、荷馬車や駄馬が、爪切場の馬路から浜街道

を通り、新島、北清水のあたりを経て海岸通りに抜けたその道中の守り神（仏）として建てられたのが、馬に乗って道中安全を祈る合掌姿の馬頭観音様なのではなかろうか」と思われるくるのでした。